

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215~9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月-1,500円 1ヶ年-18,000円]

平成8年2月5日

No. 1013

ユコス株担保入札に覗くある図式

はじめに

ロシアでは、ノリリスクニッケル、ユコス、シダンコなど十数社の大企業の国家所有株を担保に、国家が民間企業より融資を受けることとなり、その融資権をめぐる入札（担保入札）が、1995年11月から12月にかけて、次々と実施された。

今回の一連の担保入札はスキャンダル続きで、一部の銀行と政府が仕組んだデキレースだったのではという憶測まで出ている。また、今回の担保入札は一部の銀行グループ間の「死闘」の幕開けを告げる序曲であったとも言える。先日、担保入札の仕掛人のひとりと言われているチュバイス第一副首相が更迭され、後任にはヴォルガ自動車工場（VAZ）のカダンニコフ社長が決まったが、このことが銀行間の「死闘」の大勢に影響を及ぼすことは、まずないと思われる。すなわち、銀行間の戦いにおいては、今回の担保入札において勝利をおさめたONEKSIM銀行とMFK銀行の連合軍、またメナテップを中心とした銀行グループの優位は、ここしばらくは動かないであろう。ただし、カダンニコフ氏の政治家としての力量が未知数なので断言はできないが、昨年末から今年にかけて激化する様相を見せている金融・産業グループ内での金融機関と生産企業間の対立（最近ではノリリスクニッケルと、同社の支配株を有するONEKSIM銀行との間の対立が話題を呼んでいる）の構図には、影響が出るかもしれない。カダンニコフ氏は、その出身母体である生産部門、とりわけ製造業の利益を代表する人物とみられているからである。

銀行と生産企業のせめぎ合いについては、その図式がより明瞭になった時点で紹介することとし、今回のレポートでは、ユコスの担保入札を例に、銀行グループ間の「死闘」の模様と、そこから垣間見える担保入札の核心の一端を明らかにしたい。

(ロシア東欧経済研究所 調査役 坂口泉)